

富山県アイスホッケー連盟 2020-2021年度の取り組みについて（理事長所信）

1 昨年度の評価

（新たな試み）

- ・ホッケースケーティング理論（講師招へい）に基づいた基礎スケーティング練習会
 - ・上記に基づく基礎スキル練習会（木曜 19:30 枠、各チーム希望者、参加費徴収）
 - ・県体を、学生と社会人の部に分けて、合同チームやオールスター方式により開催
 - ・小学生のジュニア交流アイスホッケー競技会を実行委員会主催にて開催（クロス・アイス方式）
 - ・連盟支援事業を実施（チーム主催の大会、体験会、教室への補助）
- これらの取り組み等により連盟登録者数を維持（年々の減少傾向から若干増加へ）

（出来なかったこと）

- ・連盟理事、事務局を担う人材の充実・確保（一定期間による交代制、新たな人材による新たな発想の創出、内容に応じた人件費の支出など）
- ・大会運営スタッフ、オフィシャルなど体制構築
- ・広報活動の強化（マスコミとの関係構築、情報発信）
- ・財政面の充実（各種補助金、企業協賛、個人寄付など）

（新型コロナウイルス感染症関連）

- ・各種大会（U9、全日本少年、中部日本など）、連盟イベント（北日本杯など）の中止
- ・連盟から各チームへ通知（基本的な感染防止対策の徹底など）
- ・各チームの新規会員勧誘、練習会など活動の自粛・制限（施設の利用休止含む）
- ・スポーツ庁、県、日ア連等より指針、ガイドラインの発出

2 今年度の取組方針

（役員任期2年目として）

- ・今年度は、任期2年目であることから、基本的に、理事（担務等）は変更しない。但し、来年度、人員変更に向け準備を進める。（新たな人材による新たな発想の創出など）
- ・理事、事務局の役割・担務は、極力、明確にする。（状況により、適宜、見直しを行う。）

（活動方針）

- ・中長期ビジョンの“基本理念”「楽しむこと！ 常に目標を持って活動すること！ 続けること！～アイスホッケーを通じ、ライフスタイルを豊かなものに～」について、改めて意思統一と浸透を図る。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響により、県外遠征等が十分に実施できない可能性があり、県内大会・イベントの充実を図る。（小学生、オールドタイマー、女子なども含めて）

- ・昨年度の新たな試みについては、概ね好評であり、一定の効果も見られることから、今年度においても、事業の継続・拡充を図る。
- ・慣例に捉われず、状況に応じて、臨機応変に“しなやか”な対応に心掛ける。(活動環境の変化、新型コロナウイルス感染症への対応含む。)
- ・新しい試み(各チームのイベント含む。)を推奨し、失敗を恐れずチャレンジする。
- ・事務局・委員会、担当部門の充実を図る。予算の範囲内で、事務局員への人件費支出、また必要に応じて外部委託を行う。

(新型コロナウイルス対応)

- ・「新しい生活様式」、段階的的社会経済活動レベルの引き上げ移行期間後の取り扱いや、富山県対策指針、スポーツイベント・施設の再開に向けた感染拡大予防ガイドライン等を踏まえ、適切に対応する。(地域の状況を考慮し、段階的に「アイスホッケー活動再開ガイドライン(日ア連)」のフェーズ4, 5の活動へ移行する。)

(組織体制)

- ・事務局(事務局長及び事務局員)は、対外的(県体協、県外連盟等)及び県内チーム(各種連絡・問合せ、連盟登録、支援事業申請等)との窓口となる。今後とも、人材の充実・確保に努める。(事務局内の業務分担を進め、負担軽減を図る。各委員会、担当部門も同様。)

なお、日ア連(強化・育成等)やレフェリーの件など、事務局を通さず、直接、委員会等に連絡があった場合は、事務局に報告し、情報の共有を図る。

- ・大会運営スタッフ、オフィシャルをチームに委託する。計画立案、大会要項、予算等については、事務局及び事業委員会と協議の上、受託チームにおいて作成するものとし、最終的には理事会にて決定する。なお、県体協・協賛会社への対応は、事務局にて行う。
- ・施設側(スケートセンター)との窓口は、理事長・副理事長及び事務局とする。

以 上